

令和6年 11月28日(木)

徳島大学 長井ホール

# 2024 創薬人育成塾

13:30 – 14:30

田辺三菱製薬株式会社 創薬本部 創薬基盤研究所

山元 康王 先生

「経口医薬品の創製～SGLT2阻害薬TA-7284 (canagliflozin) と  
MC1R作動薬MT-7117 (dersimelagon) を例に～」

遺伝子治療や細胞治療、ADCなどの新しいタイプの医薬品が注目を集める昨今ではあるが、有機合成化学を基盤技術とした低中分子医薬品は、患者さんに適した治療機会を届けるという点で重要な選択肢あることに変わりはない。本講では、糖尿病を「糖を尿に出すことで治療する」というユニークな着想に基づく創薬と、経口剤により患者さんの利便性を大きく改善することを狙った創薬について紹介する。

14:40 – 15:40

中外製薬株式会社 ライフサイエンスパーク横浜 創薬化学研究部

新居 啓司 先生

「創薬研究における分析化学の役割」

中外製薬の低中分子創薬研究における分析化学の役割、重要性について紹介する。標的ターゲットやあつかうモダリティーが多様化していく中、従来の分析手法それだけでは対応できないことも多く、様々な分析手法の開発、活用が必要となる場面に遭遇する。本講義では分析化学技術のうち核磁気共鳴 (NMR) を深掘りして様々な活用方法 (絶対定量、化学構造解析、配座解析、相互作用解析) が創薬研究の推進に寄与する事例を紹介したい。

15:50 – 16:50

講師の先生を囲んでのフリーディスカッションの場です。創薬に携わりたいと思う人は是非ご参加ください。

山元先生 (第2講義室)、新居先生 (第3講義室)

連絡先 徳島大学薬学部 機能分子合成薬学分野 大高 章

E-mail: aotaka@tokushima-u.ac.jp

なお、本講演会は日本薬学会医薬化学部会 創薬人育成事業の一環です